医学博士のメディカル・コラム

病気が教えてくれるもの

第2回　医師の言葉の重さ

僕はいつも、ある確信をもって診療を行っている。それは「“変わった”症状の背景には、その患者固有の“変わった”理由がある」ということだ。よくお目にかかる病気や、稀であっても有名な病気の特徴は、その領域の医師であれば通常は把握している。それをはみ出した症状を抱えて来院した患者の場合、その症状のルーツを慎重に探ると、かなりの確率で患者の「特別な事情」が見つかる。

「特別な事情」は生活習慣、仕事、部活や趣味などのユニークな行動様式の中や、家庭内・ご近所・職場や学校内の人間関係、過労などのストレス、過去のトラウマの中に見つかることもある。それを指摘し、解決策を提示すれば、薬も要らずに症状が取れることを何度も経験して来た。

けれど、特にメンタルなことが起因している場合、多くの人は、心の世界に原因があることに気付かず、何か背後に病気があると考えている。医師は必要に応じて診察や検査を行うが、検査結果には問題がないことが多い。異常がないと経過観察されるが、原因が特定されない限り症状は続くことも多い。

僕が経験した中で、自戒として教訓になっているものがある。それは「過去に医師から言われた言葉」が心に刺さって離れないという「特別な事情」だ。「治らない」「ひどくなる」…、言葉による傷は潜在意識に残存し、症状や病気を引き起こすということを認識している医師は少ない。理屈は、厳しい言葉を使えば医師は権威者のごとく振舞えるし、相手は従順になり、嫌われることはあっても訴えられることは少ないからだ。

言葉の重みを知っている信頼すべき医師ならば、決して患者に不安や恐怖を与えない。どんな状況であっても、安心と希望を与えようと努力するものだ。それこそが、間違いない主治医をみつける最大のポイントなのだ。

医学博士 木村謙介

北海道大学医学部卒。慶應義塾大学医学部循環器内科専任講師などを歴任。
米カリフォルニア大学サンディエゴ校医学部留学、最先端の基礎医学と豊富な臨床経験を持つ。「大きな病気を発症する前にその芽を摘み取る方が医療レベルは高いはず」の信念で2012年、きむら内科クリニックを開設。

きむら内科クリニック　TEL 044(981)6617

麻生区片平5-24-15　きむら内科クリニック 麻生区　検索